

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	今井 裕紀		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-31-B-3-410017		経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること		
授業の目的・テーマ	経営における人と組織				
内容	<p>本ゼミナールでは、人と組織に関する経営課題、社会課題に関連したテーマを各自が設定し、調査・分析の実施、結果の考察などの一連の研究プロジェクトを遂行できるようになることを目指します。</p> <p>研究対象分野は経営学における、人間の行動や、経営組織のマネジメントについての研究です。この分野における研究の例としては、ワークライフバランスの実現や、多様な人材の活躍推進およびキャリア形成支援、職場定着支援、ストレス、動機づけなどが挙げられます。また、企業の経営行動、経営に関連した社会課題などを研究の対象に含めることも可能です。</p> <p>指導可能な研究の方法は主に次の2つです。 1) 公開資料にもとづく調査、分析（白書、有価証券報告書、政府統計や各種報告書などを用いた分析） 2) アンケート調査（心理、社会心理、組織心理などに関連する内容を調査し、統計解析する）</p> <p>進め方は以下のようになります。 ①社会科学における基本的な研究の方法論について学ぶ。特に統計の基本的な使い方を実習形式で学ぶ。 ②研究テーマを設定する。 ③研究テーマに関連する社会、産業、労働市場等の動向について幅広く整理する。 ④研究テーマに適した調査を行い、分析する。 ⑤分析結果について考察する。</p> <p>統計については、別途テキストを指定します。 レポート、発表、面談を適宜実施します。</p>				

学修到達目標	テーマ設定、調査・分析の実施、結果の考察などの一連の研究プロジェクトを遂行できるようになる
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究に必要な調査、分析、考察等を行う。 必要時間数：2時間
【復習】時間・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究に必要な調査、分析、考察等を行う。 ・授業での意見交換の結果を踏まえて考察する。 必要時間数：2時間

成績評価	
評価基準・方法	クラスへの参加、ディスカッションへの貢献（40%）、発表（30%）、レポート（30%）
フィードバック方法	授業中に講評を行う。あるいはポータルサイトで講評を掲示する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/プレゼンテーション

教科書/参考書	別途指定します
---------	---------

受講上の留意点等	組織行動論を履修していることが望ましい
JABEE	関連する学習・教育到達目標 : F

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	小宮山 智志		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-31-B-3-410017		経営情報学部C：情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること		
授業の目的・テーマ	<p>人々の行動や考え方を“人と人との関係（社会）”に着目して“研究”することを目的とします。また社会でもっとも求められている「集団で目標を達成する能力」をお互いに協力して高めます。</p> <p>「学校」が既存の情報・知識を覚えるところであるのに対し、「大学」とは、新しい情報・知識を創造する（＝研究する）能力を身につけることです。人々について新しい情報を創り出すには、他者の視点を取り入れる必要があります。社会で役立つ卒業研究を行うために、そして卒業後、活躍するためにゼミの仲間や、さまざまな人々と協力することを学びます。研究例の一つを紹介します。</p> <p>研究例：ある食品メーカーの製品では、アレルギー表示がパッケージの前面に「アイコン」で表示されています。このアイコンは、単にアレルギーを持っている方だけでなく、消費者一般に製品の安全・安心感を伝えることができ、購買を促進していることを明らかにしてくれました。紅翔祭で一般の方に2種類のパッケージを実際に見てもらい調査しました（彼はこのメーカーに就職しました）。</p> <p>*他にも小宮山のホームページ（http://www.nuis.ac.jp/~komiya/）に研究例が紹介されています。</p>				
内容	<p>調査・実験・分析等を行います。各月ごと、以下の予定で進めます。</p> <p>4月～5月 先行研究をまとめ、自分の研究との差異がどこにあるのかを考えます。また今までの研究にはない、斬新な仮説を考えます。</p> <p>6～7月 自分の研究のデータを収集の準備を完了させます。</p> <p>9月 調査・実験 調査・実験を実施し、データ入力を終わらせます。</p> <p>10月 分析</p> <p>11月 残りの章の執筆（11月23日仮提出 11月30日提出） 11月前半で、分析・結論などの残りの章の執筆を行います。 11月23日までに仮提出していただいたものにコメントします。11月30日には訂正して再度、提出してください。</p> <p>12月 論文訂正と発表資料の作成・発表練習 卒業研究発表会の発表資料作成と練習を行います。資料作成時に浮かんだアイデアなどを論文に盛り込み提出日に、提出します。12月中には発表資料を完成させます（その後、発表練習をする時間が必要です）。</p> <p>1月 発表会と振り返り 発表会に参加しての振り返りを行います（振り返りシート提出）。</p>				

学修到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の研究が社会にどのような貢献・影響を及ぼすか考察してください。 2. 新しく、社会に役立ち、根拠のある情報を創りだしてください。 3. 情報システムを利用して研究する能力を身につけてください。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	約2時間：研究に必要な文献を読みます。
【復習】時間・内容	約2時間：調査・実験を行い、卒業研究を執筆します。

成績評価	
評価基準・方法	<p>以下の4点について総合的に評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問いを見つける構想力 2. 斬新な仮説を導き出す独創性 3. 検証方法に関する応用力 4. 結論を導き出す論理的思考力
フィードバック方法	共有フォルダで各自のレポートへのコメントを共有し、さらにグループワークを通して、フィードバックします。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク

教科書/参考書	各自の研究内容に応じて適宜、使用します。
---------	----------------------

受講上の留意点等	<p>*締め切りは守りましょう。全員に迷惑が及びます。何かあったときは、可及的速やかに連絡してください。</p> <p>*虚偽の申告をした方は、単位の取得はできません。</p>
JABEE	関連する学習・教育到達目標：F

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	佐々木 桐子		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-31-B-3-410017		経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること		
授業の目的・テーマ	シミュレーション				
内容	<p>身近にあるさまざまなシステムに興味を持ち、そこで起こる問題を発見し、モデル化し、改善する方法を習得します。具体的には、研究対象のシステムを調査・分析し、離散系シミュレーション言語を用いてシミュレーションモデルを構築し、シミュレーション実験をおこない、改善策を検討します。</p> <p>これら一連の研究の成果として、卒業論文を執筆し、研究発表をおこないます。</p> <p>卒業論文の執筆においては、体裁の整え方、文章の書き方、図表の描き方、結果の解釈の仕方などを徹底します。また、卒業論文発表会においては、見やすさ、聞きやすさ、分かりやすさを重視し、限られた時間の中でいかに的確に伝えられるかを考え抜いていきます。</p>				

学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるさまざまなシステムに興味を持ち、そこで起こる問題を発見し、モデル化することができる。 ・問題解決プロセスを適用し、結果を正しく解釈し、研究成果を適切に表現することができる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間
【復習】時間・内容	2時間

成績評価	
評価基準・方法	<p>成果物（卒業論文：50点）、発表（卒業論文発表会：50点）により評価します。 具体的には成果物（卒業論文）は、体裁、論理構成、実行結果の解釈を重視し、発表（卒業論文発表会）は、時間、構成、質疑への応答の的確性を評価します。</p>
フィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文、発表会資料に関して、適宜、修正、改善の指示をおこないます。 ・卒業論文の提出後、講評をおこないます。 ・卒業論文発表会の後、講評をおこないます。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	
---------	--

受講上の留意点等	
JABEE	関連する学習・教育到達目標 : F

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	佐々木 宏之		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-31-B-3-410017		経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること		
授業の目的・テーマ	<p>心理学は、情報と関わりの深い領域である。たとえば、使いやすい情報システムを設計するためには人間の基本的な認知特性を理解する必要がある。また、組織の運営には人間の社会場面での振る舞いを理解する必要がある。本研究室ではこうした人間の様々な心や行動のはたらきとそのしくみを科学的、客観的に分析する方法について学ぶ。</p> <p>卒業論文は各自のテーマに関して、これまで培ったスキルを駆使して研究活動を行い、研究成果を論文にまとめる。</p>				
内容	<p>各自の研究成果について、以下の構成で論文にまとめる。</p> <p>理論的背景： 関連する先行研究の紹介 研究の目的： 何を明らかにするのか、仮説の設定 実験・調査の方法： 研究対象、素材、手続きの説明 結果： データの図示、統計解析の説明 考察： 結果の解釈、先行研究との関連を議論</p>				

学修到達目標	自ら問題を設定し、問題を解決するための情報収集能力や実験遂行能力、データの統計的解析能力を養う。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	1時間（関連研究の調査）
【復習】時間・内容	1時間（実験・調査計画の見直し）

成績評価	
評価基準・方法	【成績評価】研究活動への取り組み（10%）と論文内容（80%）、発表内容（10%）。
フィードバック方法	個別に相談する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	
---------	--

受講上の留意点等	特になし。
JABEE	関連する学習・教育到達目標 : F

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	土屋 翔		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-31-B-3-410017		経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること		
授業の目的・テーマ	<p>本研究室では、経営学理論や方法論などの学習を通して、多様な視点を持つことを目的とする。今自分が見えているモノが本当なのか、本物なのか、違うところからみたら全く違うモノに見えるのではないか、といった疑問を持ち続けて欲しい。つまり、①内在的批判精神を養成する。しかし、内在的批判精神といっても、論理的に展開することが求められる。自身が、今の立場で意見を述べているのか、意見を述べることによりどのような影響があるのか、を随時考えながら展開する力を身につける。</p>				
内容	<p>研究対象は、研究ゼミナール1、2、3、4の中から発見していく。 卒業論文では、これまで多様な視点で分析してきた多様な事象をまとめる作業をおこなう。 1) 多様な視点を分析軸として一点に収斂させる。 本研究室では、①組織、②戦略、③管理、を大きな分析軸とする。 2) 多様な事象から分析対象を設定する。 論文では、基本的に組織体に焦点を当ててもらう。</p> <p>1)と2)から、一つの組織体に対し、一つの分析軸から30ページの論文を作成する。 具体的に行う内容 ①各分析軸における分析フレームワークの作成 1. 各分析軸における系譜的研究を行う 2. 最新の論文を加味し、独自の分析フレームワークを作成 ②各分析対象の調査 1. インターネット調査 2. 文献調査 3. 聞き取り調査 ③独自の考えを創生 1. ①から②を見た場合、どのような問題点があるのか 2. 問題点の具体的かつ独創的な解決方法の提示 進行状況に応じて、学生同士の議論、中間発表を行う。 本研究室では、独創的な考えを持つこと、考えを卒業論文として表現することを要求する。</p>				

学修到達目標	将来、社会で活躍するために必要な多様な視点の持つ。その上で、内在的批判精神により洞察力や考察力を鍛えることができる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習に2時間。
【復習】時間・内容	復習に2時間。

成績評価	
評価基準・方法	①成果物60%、②発表（まとめる力、発表する力）20%、③時間外活動等における貢献度20%
フィードバック方法	随時PCにてフィードバックを行う。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）／反転学習／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	随時提示する。
---------	---------

受講上の留意点等	<ul style="list-style-type: none">①ゼミ内でメーリングリストを作り、情報共有をしてもらう。②宿題等はしっかりと提出することが最低条件である。③本研究室で先輩ができた場合、指導してもらう。④基本的に卒業研究で決まった内容（スケジュール）は、余程のことがない限り出席、参加してもらう。
JABEE	関連する学習・教育到達目標：F

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	藤瀬 武彦		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-31-B-3-410017		経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること		
授業の目的・テーマ	<p>本ゼミでは、主に健康スポーツ科学関連の分野についての卒業論文を作成する。その内容は私たち人間にとって最も身近な「身体の組成や機能」に関する研究、「健康体づくり」や「競技スポーツ」に関する研究、さらには私たちの生活に関わる医療や道路交通法などの社会的な問題についての研究にまで及ぶ。</p>				
内容	<p>卒業論文のテーマに関しては、各学生の興味を最大限尊重するつもりである。以下に本ゼミの過去の卒業論文などから主なキーワードを示したので参考にしてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体関連：肥満度（体脂肪率、BMI、ウエスト・ヒップ比）、痩せ願望とボディイメージ等 ・体力関連：1RM（最大筋力）、筋持久力、VO2max（全身持久力）、エネルギー消費量、競技力等 ・健康関連：生活習慣病、運動不足、食生活、喫煙、性行動とAIDS、テクノストレス等 ・社会関連：オリンピック、少子高齢化、医療と介護、医療過誤と情報公開、道路交通法等 				

学修到達目標	F: 文献考証等をしっかり行い、自己のオリジナルデータを収集し、研究として意義のあるものを追求する。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	主に卒業論文テーマに関連する文献の収集と精読など。。各2時間を要する。
【復習】時間・内容	主に卒業論文テーマについてのデータ収集と分析並びに論文の執筆など。。各2時間を要する。

成績評価	
評価基準・方法	文献考証をしっかり行っているか、自分で収集したデータを用いているか、研究目的と結論が適切か、論文の体裁が整っているか、などについて総合的に判断して評価する。
フィードバック方法	質問等は可能な限り随時対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	特になし。
---------	-------

受講上の留意点等	本ゼミでは、原則として各学生が必要なデータを実験やアンケート調査により収集し、統計的手法を用いて分析した結果を用いて卒業論文を執筆することが求められる。従って、データ収集や執筆に対して最後まで諦めないで全力で取り組んでもらいたい。
JABEE	関連する学習・教育到達目標 : F

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	藤田 晴啓		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-31-B-3-410017	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	<p>上記「関連するディプロマポリシー」より以下の経営学科のディプロマポリシーが本ゼミナールにふさわしいので、以下のとおり修正します 「人間の特性および人間活動、社会環境の理解に基づいた、地域の問題解決を提案・支援・実現できる人材育成」を目標に、以下のテーマ・内容を設定します</p> <p>研究対象や分野は特に固定しません 教員の専門分野以外でも、テーマは学生側から提案できます これまで誰も思いつかなかったような、新たな視点やアイデアが卒業研究に活かされる場合もあります。なぜ人はそのような行為をするのか、広く社会をみて興味ある現象を対象にした研究も可能です</p>				
内容	<p>卒論テーマの選定と教員とのディスカッションを繰り返します。卒業研究のスケジュール、研究の目的、方法等の卒業論文にかかわる要点を学習します。基本的に学生が自ら先行研究調査、情報収集、現地調査、解析、考察ができるテーマ研究内容であればどのような題材でも受け付け、分野は問いません。卒研生が自らテーマをみつけるのが難しい場合は、具体的な題材を教員が提供します。</p> <p>毎回の学習時間：先行研究の調査読破等卒論を執筆する準備、論文執筆も含め、予習復習に4時間は必要です</p>				

学修到達目標	社会人として最も重要な対人コミュニケーションが育成できる 卒研プロジェクトに参加することにより、地域理解交流を深め、ヒトの連携を強めることができる 卒業研究を遂行することにより科学的な考え方を身につけることができる
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	毎週卒業論文をA4で1ページ程度執筆してポータルに「課題」として提出する（2時間以上）
【復習】時間・内容	毎週研究ゼミ1～4にて卒論個人指導を実施し、あらかじめ提出された卒論に対し修正点等をコメントするのでその修正（2時間以上）

成績評価	
評価基準・方法	卒論執筆提出分10回を50% 中間発表会および卒論発表会の内容で50%評価します 卒論データベース登録、卒論執筆日誌も卒業の必須条件となります
フィードバック方法	毎回の卒論提出に対し個別に修正点等をコメントする

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	プレゼンテーション

教科書/参考書	特になし
---------	------

受講上の留意点等	卒研では教員と対面で卒業研究進捗状況の確認・指導を行います 卒業論文作成には責任と自覚をもって実行してください
JABEE	関連する学習・教育到達目標 : F

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	木村 誠		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-31-B-3-410017	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	指数的成長技術時代のデジタル戦略研究：事業・産業・ライフプランの新たな知見				
内容	<p>デジタル技術を応用した製品・サービスの事例分析と最新の経営理論の融合領域。 数理モデリングソフトウェア（システムダイナミクス、統計解析ソフトウェアR等）を用いたマーケティング効果定量化等の実証研究も可。</p> <p>研究論文作成の順序</p> <ol style="list-style-type: none"> 0. 主要データとその重要性を示した図表 1. 結果と議論：Results and Discussion 2. 方法：Method 3. 結論：Conclusion 4. はじめに：Introduction 5. タイトル：Title 6. 概要：Abstract <p>以下のビデオ参照：</p> <p>【第一線の研究者とコラボ】論文作成に必要な研究メソッド～Web of Scienceを活用して～</p> <p>https://www.youtube.com/watch?v=7mVd1Efy-c</p>				

学修到達目標	研究方法論を修得できる。研究論文を作成できる。新たな知見が得られる。創造性と厳密性の双方の視座をもてる。
実務経験との関連性	米国製ソフトウェア販売代理店業務（営業企画推進）の経験を活かし、現状の知見と未来への思考について解説。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	研究進捗に合わせて指示，資料を配布する。これらの確認作業に2時間を要する。
【復習】時間・内容	研究進捗に合わせて指示，資料を配布する。これらの確認作業に2時間を要する。

成績評価	
評価基準・方法	卒業論文を完成，提出できない場合は対象外として評価。卒業論文の構成と新規性，厳密性を総合的評価します。
フィードバック方法	Slackの「help-卒業研究」チャンネルでインタラクティブに対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	研究テーマ，進捗に合わせて指導する。
---------	--------------------

受講上の留意点等	2021年度は募集しない。担当教員の研究分野と研究実績は、次URLで公開。 https://researchmap.jp/platform
JABEE	関連する学習・教育到達目標 : F

科目名	卒業論文	単位数	4単位	学期	後期
担当教員	山下 功		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-31-B-3-410017		経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること		
授業の目的・テーマ	<p>管理会計と会計情報システムに関する研究 ～会計情報を活用して企業の命を救うことができます～</p>				
内容	<p>このゼミナールでは、管理会計と会計情報システムに関する研究を行います。 管理会計は「経営に役立つ会計」であり、企業の目標を達成するために会計情報を認識、測定、集計、分析、解釈する一連のプロセスです。それゆえ、財務会計が企業外部への報告を目的とするのに対して、管理会計では内部報告目的が重視されます。また、コンピュータの性能と通信技術が発展したことにより、経営情報システムと会計との結びつきが一層強くなっています。</p> <p>「研究ゼミナール1, 2」では管理会計に関する本を輪読し、知識を深めていきます。 「研究ゼミナール3」では卒業論文のテーマを選択し、文献などの調査を行い、執筆を開始します。 「研究ゼミナール4」「卒業論文」では卒業論文の執筆を行い、その成果を卒業論文発表会で発表します。 また、工場見学やゼミ合宿も行う予定です。</p>				

学修到達目標	原価や費用を削減して、企業がより多くの利益(儲け)を得る方法が身につく。 原価や費用の発生源によって、その管理の方法が異なることを理解できる。 会計情報を用いて、企業の業績の良し悪しを測定できる。 会計情報システムの機能や役割を、より深く知ることができる。 経営学だけでなく、技術やものづくりに興味を示すことができる。
実務経験との関連性	上場企業で経理業務・会計情報システム構築などに従事した教員が、実務経験を基に会計・経営について指導します。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	教科書を事前に読み、要約を作成します。 卒業論文着手後は、卒業論文を作成します。 90分の授業1回当たり、予習と復習を合わせて180分が必要です。
【復習】時間・内容	教科書を事後に読み、理解を深めます。 卒業論文着手後は、指導内容をもとにして卒業論文を修正します。 90分の授業1回当たり、予習と復習を合わせて180分が必要です。

成績評価	
評価基準・方法	「研究ゼミナール1, 2, 3, 4」は、課題レポート50%、報告及び討論50%で評価します。 「卒業論文」は、論文70%、発表会25%、データベース登録5%で評価します。但し、3項目の全てを行った場合のみ、成績評価の対象とします。
フィードバック方法	課題に対して講評を行います。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	上埜進等(2010)『管理会計の基礎 第4版』税務経理協会, ISBN:9784419054595.
---------	--

受講上の留意点等	<p>このゼミナールでは、製造業(ものづくり)に敬意を払える学生を求めています。また、世の中の様々な現象に深く関心を持っている学生を求めています。毎日の通学で見る町並みの移り変わりなどの、身近なことでもいいのです。</p> <p>【卒業後の進路と就職先】 このゼミナールの学びはものづくりと関連が深いため、製造業への就職を推奨しています。 また、会計の知識を直接活かすことができる会計事務所や会計ソフトウェア会社への就職も推奨しています。公認会計士や税理士になる道もあります。 上記以外では、小売業、次いで情報産業への就職実績が多いです。 金融業(銀行、保険、投資等)、総合商社、マスコミなどはあまり推奨していません。また、就職実績も極めて少ないです。 上場企業への就職実績もあります。</p>
JABEE	